



識字教育:夢を叶えるために

コロナ禍の世界的な教育危機は、何百万人もの学生を永久に教育上不利な状況に置くこととなります。生涯を通じて学習するための確固たる基礎を築くには、小学校低学年のうちに読み書きの能力と読む習慣を身につけることが極めて重要です。

子どもたちが学び続け、生涯を通じて学習するための軌道に乗れるよう、ルーム・トゥ・リードは、この危機的な状況においても、識字教育プログラムを調整しながら、革新的な方法で子どもたちと連絡を取り続けてきました。保護者には家庭で子どもの学習を支援するためのツールと知識を提供し、教育者にはバーチャルトレーニングを提供し、ダイレクトメッセージプラットフォームを通じて、生徒や家族と連絡を取り合い、インターネットにアクセスできない家庭には印刷した資料を配布し、ラジオやテレビを通じて読み聞かせを行い、現地語の児童書をオンラインに掲載しています。学校閉鎖やその他の多くの課題に生徒が直面しても、このようにリモート（オンライン）で介入することで、識字能力の向上を支援できます。また、ルーム・トゥ・リードの活動範囲を広げ、これまで以上に多くの子どもたちを支援することができるようになりました。学校の再開に伴い、教育機関と協力し、生徒の学習意欲を高め、学習経験の損失に対応するための支援を行っています。今回の危機から得た重要な教訓を生かし、今後もますます有益な形でプログラムを進化させていきます。

ルーム・トゥ・リードは、お互いにつながりを持ち続けるには、読み書きが重要であると考えています。本は子どもの世界を広げ、子どもは家にいながら新しい場所へ飛び立ち、新しい経験をすることができます。そのため、この2年間は、子どもたちの自宅に直接、児童書を届けています。一部のコミュニティでは、ルーム・トゥ・リードからの児童書は、子どもたちがコロナ禍で受け取った唯一の学習教材でした。

歴史的に低・中所得国に住む小学生の50%以上が文字を読めないとされています。

ルーム・トゥ・リードの識字教育プログラムを通じて、これまでに以上に多くの子どもたちに手を差し伸べ、変化を実現できるようご支援ください。

成果

読書がより流暢に。

ルーム・トゥ・リードの読解力評価によると、識字教育プログラムの子どもたちは、同等の学校の同級生よりも流暢に読むことができます。プログラム実施校の生徒は、2年生の終わりまでに、同年代の学生に比べて、平均で2倍、国によっては3倍近い速さで文字を読むことができますようになります。

読解・理解力の向上。

また、このプログラムによって支えられている子どもたちは、より高い理解力で本を読むことができます。読んだばかりの文章について理解力の質問をしたところ、ルーム・トゥ・リードのプログラムの子どもたちは、比較対象の学校の子どもたちよりも平均して87%多く正解しました。

読書習慣。

ルーム・トゥ・リードの識字教育プログラムは、読書習慣の発達を促しています。ルーム・トゥ・リードの図書館はそれに貢献している要因です。2020年だけでも350万冊の本が図書館から貸し出されました。

ルーム・トゥ・リードのアプローチ

ルーム・トゥ・リードの識字教育プログラムは、小学校を子どもに優しい学習環境に変え、子どもたちが生涯にわたって自立した読書家となるよう支援しています。そのために、学校には現地語の本が溢れる図書室を設置し、教師や司書に対しては、熱心な若い学習者を惹きつけるための十分なトレーニングを提供しています。

1 教員のトレーニングとサポート

読み書き学習の最も重要な要素のひとつは、読み書きのスキルを効果的に教え、育てる方法を熟知しているインストラクターの存在です。低学年の先生には、生徒を上手に支援するための知識とツールを習得するための専門的な能力開発と授業中のコーチングを提供しています。フォニックスに基づいた教育設計により、子どもたちが論理的な順序で音と言葉の解読を学び、芽生えた能力に自信を持てるようになります。

また、教育関係者に対して、図書室の効果的な運営方法や、生徒の自主的な読書を促すアクティビティの実施方法についてのトレーニングも実施しています。現地スタッフは、定期的に図書室の環境をモニターし、フィードバックを提供しています。そのため、ルーム・トゥ・リードの支援が終了してからも、コミュニティごとに高機能な図書館を維持するためのノウハウを得ることができます。

コロナ禍では、非対面式活動を通じて、教育者、学校のリーダー、本の制作者、保護者などの関係者の対応力を高めることに力を入れました。リモートサポートにより、休校中も子どもたちが勉強できるよう教育関係者を支援しています。

2 質の高い読み物

読書初心者には、そのレベルに合った読み物や教本が必要です。テキストが難しすぎると、学生は抵抗感を覚え、読書意欲を低下させてしまう可能性があります。残念ながら、ルーム・トゥ・リードが活動しているコミュニティでは、初心者向けの読み物は極めて限られているか、存在しないことが日常的なことです。そこで、さまざまなレベルの読者に楽しんでもらえるような現地語の絵本を制作しています。また、本の作り手や出版社を育成し、児童文学が豊かな図書室や図書館プログラムを育てていきます。

リモート学習の子どもたちのニーズに応えるために、ルーム・トゥ・リードは児童書のデジタルライブラリー「リテラシークラウド」を拡充しています。このライブラリーは、Google.orgの支援を受けて、ルーム・トゥ・リードが構築しました。リテラシークラウドには現在、32言語で2,000作品以上の書籍があり、読み聞かせのビデオや、教師、出版社、著者、イラストレーター向けのリソースも用意されています。

また、ルーム・トゥ・リードのリテラシーコンテンツをさまざまな方法で提供することで、技術格差を解消しています。2020年からは、南アジア各地のテレビ局と協力し、ルーム・トゥ・リードの児童書の読み聞かせや、どうすれば保護者は子どもの読書習慣をサポートできるかについてのヒントなど、識字力に重点を置いた番組を制作しています。

ラジオは今でも世界中で最も広く利用されている技術であり、ネパール、インド、南アフリカ、タンザニア、および

スリランカで、ルーム・トゥ・リードの識字教育ラジオプログラムが導入されています。おかげで、多くのパートナーコミュニティで、子どもたちが物語の朗読を聞いたり、読み書きのレッスンに参加できるようになりました。

3 安全で子どもが親しみやすい学習環境

読み書きを学ぶことは、十分に難しいことであって、暑くて暗い過密な教室となれば、たやすいことではありません。そこで、子どもたちが安全で快適な環境で学習に集中できるよう、コミュニティと連携して学習スペースの改善に取り組んでいます。既存の学校スペースを改修して照明や安全性、換気を改善したり、生徒が本と積極的に触れ合えるような図書室専用スペースを設置したりするなどのプロジェクトを行っています。また、子どもサイズの家具の調達や、教材の配置方法の指導も行っています。これにより、学生たちは自分で読む練習がしやすくなります。

コミュニティや行政との強力なパートナーシップ

長期的な利益を確保するために、プロジェクト計画の早い段階からコミュニティの参加を要請し、プロジェクト費用に共同投資することで、現地でのオーナーシップを確立しています。また、行政の協力により、プログラム実施校以外でも、子どもたちの識字学習を向上させるための政策やカリキュラムの変革を広域で推進しています。

信頼できる健全性

財務健全性

2007年以来、慈善団体の格付け機関チャリティ・ナビゲーターから、財政運営の健全性について最高ランク「四ツ星」を14回獲得。

識字率向上のリーダー

2014年米国議会図書館識字賞受賞、2011年ユネスコ孔子賞受賞、2014年世界子供大賞名誉受賞。

新型コロナウイルスに伴うパンデミックがもたらした課題への対応と優れた活動が評価され、2020年米国議会図書館識字率向上プログラム特別対応賞受賞。

ソーシャルイノベーター

ツイッター初のソーシャル・イノベーション・パートナー企業。スコール財団の社会起業家賞3回受賞。

お問い合わせ
お気軽にお問い合わせ
ください
info@roomtoread.org

ルーム・トゥ・リードのグローバル・オフィス：
サンフランシスコ・デリー・香港・ロンドン・ムンバイ・ニューヨーク・シンガポール・シドニー・東京・チューリッヒ